

踏 み 跡 < My mountains >

奥秩父	鴨沢から雲取山往復	No.054
-----	-----------	--------

年末に牛込から国立に転居したため、多摩、秩父の山々は手近な存在となった。中でも奥多摩の御岳山、大岳山あたりは、国立駅のプラットホームからも眺められる。裏庭のような近さである。

それにもまして私を喜ばせたのは、この国に生まれてから十年余密着して暮らしてきた富士の華麗にして重厚な姿に約十年ぶりに接近できたこと。昭和30年の夏以来久しぶりに富士の見える暮らしができるようになったのは何にも変えがたい嬉しさである。

新しい家で新しい年を迎えるべく、家内の片付けで年末をあわただしく過ごし、年明けて今年第一回目の山。というよりも、国立を起点とした初の山旅と表現した方が正直かもしれない。

雲取山は2017m、東京都の西北端に座す秩父多摩国立公園の主たる峰のひとつである。

昭和41年1月10日

三鷹発の高尾行一番電車、国立発は4時34分。青梅線立川発4時48分の氷川行に乗ることができる。

この電車には、三鷹以西つまり多摩地区の住人でなければ乗ることができない。

同じ車両に数人の釣り師がいた。氷川発6時05分の鴨沢行のバスに乗ることができて、鴨沢に着いてもまだ6時45分。一日をたっぷり有効に使うことができるし、都心に住んでいては体験できないことである。

7時前の奥多摩湖の水面には朝霧が立っている。

所畑の吊り橋を見下ろしながら登ると、丹波の方角に飛龍山がどっかりと腰を下ろしているのが見える。

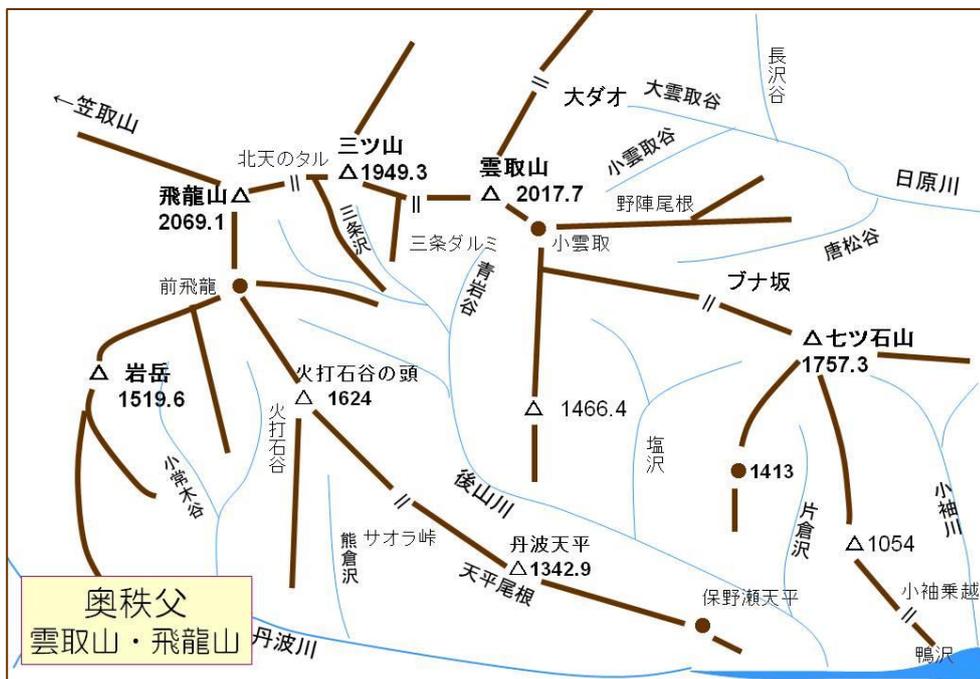
七ツ石小屋9時15分、昼食をとり9時55分に出発。七ツ石山(1757.3m) 10時15分、5分の休憩で景色を眺めてすぐに出発。主稜線に出ると雪の稜線となり、冬山の雰囲気が高まる頃に小雲取山。小屋の人が遊んだ跡か、ところどころの斜面にシュプールが走っている。

雲取山山頂(2017.7m)に11時40分に到着。懐かしき峰々の連なる360度の中、頂上には人っ子ひとりいなく、聴こえるのは時々起きる風のざわめきだけの静寂で贅沢な山頂。

12時20分出発、元のコースを鴨沢へ向かって下山。

ウサギの足跡に目をぎょろつかせながら下り、鴨沢に16時に帰着。ゆったりした気分の日帰りの雪山だった。

雲取山の日帰り登山が可能なのがわかり、収穫がある山行だった。
以上



(修正・更新:2023年11月)